

シンジェンタグループ広報室

シンジェンタ ジャパン株式会社

〒104-6121

東京都中央区晴海 1-8-10

オフィスタワーX21 階

Tel: 03-6221-1109 Fax: 03-6221-1051

www.syngenta.co.jp

シンジェンタ シード株式会社

〒289-2304

千葉県香取郡多古町高津原向ノ台

401-2

www.syngentaseeds.co.jp

syngenta

media release

2010年6月15日

報道関係各位

シンジェンタ ジャパン株式会社

水田の重要病害を防除する 新規空中散布用殺虫殺菌剤「アミスター[®]アクタラ[®]SC」 6月10日から販売

シンジェンタジャパン株式会社（本社：東京都中央区、村田興文社長）は、2009年7月2日に農薬登録を取得した新規水稲用殺虫殺菌剤「アミスター[®]アクタラ[®]SC」の販売を2010年6月10日より開始しました。（登録番号第22403号）

「アミスター[®]アクタラ[®]SC」は、無人ヘリコプター散布の防除で数多くの実績を積んできたアミスター[®]（有効成分アゾキシストロビン）と、野菜・畑作などの殺虫剤として高い評価をいただいているアクタラ[®]（有効成分チアメトキサム）を混合した、新しい空中散布用の殺虫殺菌剤です。これら二つの有効成分が、水田の重要病害「いもち病」、「紋枯病」、斑点米の原因となる「カメムシ類」に対して優れた防除効果を発揮します。

「アミスター[®]アクタラ[®]SC」は、散布適期が幅広く、病害虫の同時防除が可能のため、使いやすく、航空防除用の省力化に役立つ殺虫殺菌剤です。

「アミスター[®]アクタラ[®]SC」は、次の4つの特徴を持っています。

特徴1. 稲の主要な病害「いもち病」「紋枯病」や害虫「カメムシ類」を同時防除

- ・ 二つの成分のうち、アミスター[®]（有効成分アゾキシストロビン）がイネ体内の隅々まで浸透。植物病原菌の生存に必要な「呼吸」を阻害し、病原菌増殖サイクル全てに効果を発揮します。
- ・ もうひとつの成分アクタラ[®]（有効成分チアメトキサム）が害虫への食毒作用を發揮。吸汁を阻害しカメムシ類を餓死に至らせます。

特徴2. 有効成分が2成分のため、減農薬栽培にも対応

特徴3. 散布適期が長く、防除体系が組みやすい

- ・ とりわけ「紋枯病」に対して従来の薬剤よりも散布適期が幅広く、病害虫の同時防除が可能です。

特徴4. 収穫14日前まで使用が可能

「アミスター[®]アクタラ[®]SC」は、シンジェンタジャパン(株)の商系ルートと協友アグリ株式会社（登録番号第 22404 号）を通じて販売されます。本製品の規格は、500ML と 5L があります。

添付資料 1：適用病害虫の範囲および使用方法

添付資料 2：使用上の注意事項

シンジェンタは、“植物のちからを暮らしのなかに “ を企業目的として世界 90 カ国以上で事業を展開し、2 万 5,000 人超の社員を擁する世界のリーディングカンパニーの一つです。ワールドクラスの科学、グローバルな事業活動とお客様へコミットメントを通じて、作物の生産性向上、環境の保護および健康と生活の質の向上をサポートしています。さらに詳しい情報は、インターネット www.syngenta.com（英語）または、www.syngenta.co.jp（日本語）をご覧ください。

将来の見通しに関する記述についての注意事項

本リリースには、将来の見通しに関する記述が含まれています。将来の見通しに関する記述は、「見込まれています」、「でしょう」、「の予定です」、「潜在的な」、「計画」、「展望」、「推定」、「目的」、「目標」またはその他これに類似した表現により特定されます。そのような将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要素により影響を受けるため、実際の結果と異なる可能性があります。そのようなまたはその他のリスクと不確定性については、シンジェンタが米国証券取引審議会に提出した入手可能な書類をご参照ください。シンジェンタは、実績、前提条件の変化などの要因を反映するための将来の見通しに関するいかなる記述もそれを更新する義務を一切負わないものとします。本リリースの全体または一部は、シンジェンタAGの普通株またはシンジェンタADSの売却もしくは発行を申し出るか、勧誘するものではなく、それらの購入または申込の申し出を勧誘するものでもありません。また、それらの目的のために締結される契約に関してその根拠または拠り所となるものではありません。

本件に関するお問い合わせ先

シンジェンタグループ広報室 坂本智美・大塚真理子

TEL：03-6221-1088 / 03-6221-1109

添付資料 1 : 適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農薬の総使用回数	アゾキシストロビンを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類 いもち病 紋枯病	1000倍	60～150 L/10a	収穫 14 日前まで	2回以内	散布	3回以内 (育苗箱への処理は1回以内、本田では2回以内)	4回以内 (育苗箱散布は1回以内、本田では3回以内)
		8倍	800 mL/10a			無人ヘリコプターによる散布		

規格：500ml×20、5L×4

添付資料 2：使用上の注意事項

- 1) 使用前に容器をよく振ってから本剤の所要量を所定量の水にうすめ、よくかき混ぜてから散布すること。
- 2) 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節すること。
- 3) りんごの一部品種(あかね、旭、ガラ、きざし、モーリーズデリシャス、ラリタン等)では、葉にネクロシス(褐変)や落葉、また果実にはさび果や落果を伴う品種特有の激しい薬害が生じるので飛散(ドリフト)等により散布液がかからないよう十分注意すること。また、本剤を使用した散布器具及び希釈液タンクを用いて、りんごのこれら品種には散布しないこと。
- 4) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 5) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - ② 養蜂が行われている地区では都道府県の畜産部局と連絡し、ミツバチの危害防止に努めること。
 - ③ 無人ヘリコプターによる散布に使用する場合で、周辺にミツバチの訪花が予想されるような植物が群生している場合には、これらの植物に飛散しないよう風下の境界周縁部での散布を避ける等、特に注意をすること。
- 6) 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意を守ること。
 - ① 散布は各散布機種 of 散布基準に従って実施すること。
 - ② 無人ヘリコプターによる散布にあつては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - ③ 散布中、薬液が漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - ④ 散布薬液の飛散により他の動植物（特にりんごの一部品種）および自動車やカラートタンの塗装等に被害を与えないよう散布区域内の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
 - ⑤ 水源池、飲料水等に本剤が飛散流入しないように十分注意すること。
 - ⑥ 散布終了後は次の事項を守ること。
 1. 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄すること。
 2. 使用残りの薬液は必ず安全な場所に責任者をきめて保管すること。
 3. 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- 7) 本剤の使用にあたっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。